

土木学会複合構造委員会 第10回幹事会議事録

1. 日 時：平成18年8月29日（木）14:00～18:15

2. 場 所：土木学会C会議室

3. 出席者：

上田委員長，中島副委員長，大垣幹事長，池田，伊藤，大山，杉浦，武知，西崎，古市，
本間，溝江，山口，横田，渡辺各幹事，川島事務局

（敬称略，計16名）

4. 配布資料

資料 幹10-0 第10回複合構造委員会幹事会議事次第

資料 幹10-1 第9回複合構造委員会幹事会議事録（案）

資料 幹10-2 幹事会作業分担（案）

資料 幹10-3-1 複合構造物の性能照査指針小委員会 活動状況報告

資料 幹10-3-2 現状調査小委員会 活動状況

資料 幹10-3-3 維持管理小委員会 活動報告

資料 幹10-3-4 新材料を用いた複合技術小委員会 報告書目次（案）

資料 幹10-3-5-1 FRP複合橋梁小委員会の報告

資料 幹10-3-5-2 FRP複合橋梁小委員会名簿

資料 幹10-4-1 複合構造委員会 出版細則（案）

資料 幹10-4-2 複合構造委員会 出版細則（案） 付表

資料 幹10-4-3 複合構造シリーズの原稿書式について

資料 幹10-4-4 原稿の執筆要領

資料 幹10-4-5 （参考資料）原稿の執筆要領（コンクリートライブラリー）

資料 幹10-4-6 （参考資料）原稿の執筆要領（コンクリート技術シリーズ）

資料 幹10-4-7 （参考資料）トンネルライブラリー執筆要領（案）

資料 幹10-5 年次学術講演会研究討論会 研-22 資料

資料 幹10-6-1 「第7回 複合構造の活用に関するシンポジウム」について

資料 幹10-6-2 「第7回 複合構造の活用に関するシンポジウム」の講演論文募集（会告案）

資料 幹10-7-1 JSCE-KSCE Joint Seminar on Hybrid Structure

資料 幹10-7-2 JSCE-KSCE Joint Seminar on Hybrid Structure スケジュール，作業分担

資料 幹10-7-3 GUIDELINE FOR PREPARATION OF FULL MANUSCRIPT OF PROCEEDING
FOR KSCE-JSCE JOINT SEMINAR,

資料 幹10-8-1 複合構造物の性能照査指針（案）に基づく照査例の講習会（札幌会場）報告
書

資料 幹10-8-2 札幌講習会アンケート結果（その1）

資料 幹10-8-3 札幌講習会アンケート結果（その2）

資料 幹10-8-4 複合構造物の性能照査例 正誤表（案）

資料 幹10-8-5 複合構造物の性能照査指針（案）に基づく照査例の講習会 アンケート結果

資料 幹10-9 「革新的構造材料の土木分野への活用に関する講習会」報告書

資料 幹 10-10-1 複合構造委員会委員長候補者選考細則挙管理小委員会

資料 幹 10-10-2 複合構造委員会による土木学会各賞等の候補推薦細則

資料 幹 10-11 平成 17 年度実績の委員会活動度個別調査書

資料 幹 10-12 第 4 回複合構造委員会における特別講演について

5. 議事次第

(1) 第 9 回幹事会議事録（案）の確認（資料 幹 10-1）

- ・ 渡辺幹事より、第 9 回幹事会議事録の確認がなされた。
- ・ 公募の小委員会の運営要領案の見直しは次回以降に行う。

(2) 幹事会業務分担について（資料 幹 10-2）

- ・ 大垣幹事長より業務分担の変更点について説明があった。
- ・ 照査例 WG のメンバーが、継続教育 WG のメンバーに変更することが提案され、承認された。
継続教育 WG では、長期的な視点から、複合構造委員会の今後の講習会や若手技術者の勉強会などの継続教育に関する戦略的な計画を今後検討することとなった。メンバーには継続教育実施連絡会担当の伊藤幹事も加わるることとなった。
- ・ 日韓ジョイントセミナーWG の担当者は参加者すべてとしている。国際連携小委員会のメンバーについては今後検討する。
- ・ 選挙管理小委員会は、大垣幹事長が小委員会委員長に、委員には西崎幹事と大山幹事になることとなった。
- ・ 構造工学委員会との調整役として、本間幹事も加わるることとなった。

(3) 各小委員会の活動状況報告

- ・ 複合構造物の性能照査指針小委員会の活動状況（資料 幹 10-3-1）
 - －渡辺幹事から小委員会の活動状況について報告が行われた。
 - －来年度末に指針のドラフトを作成する予定である。
 - －小委員会メンバーとして斉木先生（東北大）が加わるることとなった。これに関連して複合構造委員会内規に関して以下の議論が行われた。
 - ①内規第 4 条では、「委員等の選出は委員長が推薦して会長が委嘱する。」とあり、小委員会の場合は、「委員の選出は小委員会委員長が推薦して会長が委嘱する」と読み替えることとなっている。これを、「小委員会委員の選出は小委員会委員長が推薦して、複合構造委員長が承認し、会長が委嘱する」に変更する。複合構造委員長の承認は、幹事会での審議（メール審議等を含む）で OK とする。
 - ②現在土木学会内規を見直し中（今後は電子ファイルでなく紙資料で保管）であり、これに合わせて各委員会の内規も見直している。ただし、変更する場合は、9 月の理事会に間に合うようにする必要がある。内規の中で、“〇〇小委員会”は小委員会に変更し、“専門部会”の表現も見直す。なお、文章表現の細かい見直しは学会内でも行う。
 - －WG を委員会としての実績評価を考慮して小委員会として開催したが、今後は WG として開催する。
- －本間幹事より、構造工学委員会の示方書の共通編は、古田教授を中心に現在立ち上げ準備中であることが報告された。今後メンバーの人選を行うが、各委員会からの選出は行わず、各分野から人選し、各委員会での意見を聞きながら調整を図っていくとの説明があった。また、構造工学委員会石橋委員長は、共通編に“技術者の果たす役割”を入れたいとのことである。なお、荷重編についての具体的な活動はこれからとのことである。
- ・ 現状調査小委員会の活動状況（資料 幹 10-3-2）
 - －伊藤幹事から活動状況について報告があった。

- ーデータ収集WGでアンケートを実施しており、回収期限を延長して現在回収中である。
- ー性能・分析WGおよび調査・分析WGは、現在、指針や性能照査例について分析・整理作業を行っている。調査・分析WGは今後9A/9Bの改訂作業を行う。
- ー複合構造の調査報告書はH19年度中に、9A/9Bの改訂はH19年度中を目標に行う。
- ・ 維持管理小委員会の活動報告（資料 幹 10-3-3）
 - ー杉浦幹事から活動状況について報告があった。
 - ー今後はWGに分かれて具体的に活動を行う予定である。
 - ー大垣幹事長より、委員会に提出する各小委員会の活動報告書については書式を見直し中であることが報告された。
- ・ 新材料を用いた複合技術小委員会の活動報告（資料 幹 10-3-4）
 - ー古市幹事から活動状況が報告され、報告書の目次案についての説明があった。
 - ー報告書のタイトルの“新材料”については誤解を招く恐れがあるので、小委員会でタイトルを再度検討する。
 - ー小委員会メンバーとして、^{なからい}半井講師（群馬大学）が加わることとなった。
- ・ FRP 複合橋梁小委員会の活動報告（資料 幹 10-3-5-1,2）
 - ー西崎幹事から活動状況について報告があった。
 - ーFRP 歩道橋の設計マニュアルの目次案を作成した段階である。設計法WGではマニュアルの作成、技術開発WGでは新たな検討を行う。
 - ー小委員会の成果としてマニュアル（案）を作成する。ただし、タイトルの“性能照査型設計マニュアル”は、“照査”と“設計”、“照査指針”と“設計マニュアル”（目次案をみると前者）との区分が不明確であるため、小委員会で再度検討する。
- ・ FRP 複合材料による補修・補強小委員会の活動報告
 - ー山口幹事から、現在、委員の公募中であり、秋に委員会を開催する予定であるとの報告があった。
- ・ 各小委員会の審議と報告
 - ー現在、親委員会での小委員会の活動報告用様式を大垣幹事長が作成中である。
 - ー幹事会では、小委員会の活動報告ではなく、審議事項を中心に行う。

(4) 複合構造委員会出版細則（案）（資料 幹 10-4-1～3）

- ・ 武知幹事より、細則案および出版物の分類案についての説明がなされた。主に、出版物の分類とその取り扱いについて議論が行われた。
- ・ 複合構造物の出版物は、基本的に、示方書（水準1）、複合構造シリーズ（水準2）、ハイブリッドライブラリー（水準3）の3水準に分類する。コンクリート委員会の出版物と、シリーズとライブラリーの水準が逆になるが名称が異なるため問題ない。また、講習会テキストなどを水準4とすることが提案されたが、水準4は原則なしとする。
- ・ シンポジウム論文集は、シンポジウム内での収支のため出版委員会とは無関係であるため、別扱いとする。幹事会での承認を得たものとして出版する。なお、定期購読者が生じた場合は、出版委員会扱いとなる。
- ・ 現時点で出版細則を定めることは難しいので、今後出版物の状況をみながら作成していく。ここ数年は、幹事会の審議を経た上で、全て委員長が承認する。小委員会の報告書を出版するかどうかは委員長の判断とする。
- ・ 参考として、他委員会の出版物に関して下記の説明があった。
 - ーコンクリート委員会の出版物は、示方書、ライブラリー、技術シリーズの3水準である。出版計画について、年に1回確認する機会を設けている。

ートンネル委員会では、示方書とライブラリーがあり、調査研究報告書も全てライブラリーとして出版している。

ー構造工学委員会では、出版物は査読委員3名を決めて査読し、査読結果を小委員会に返している。

- ・ 出版物は委員会承認ではなく、委員長承認とすべきでは。水準の分類は、水準1が委員会での審議（委員に意見を求める）、水準2は幹事会で審議（査読）した上で委員会に報告。水準3は委員会および幹事会に報告（報告は事後でも可）とする方法もある。また、水準2は幹事全員でみる、水準3は幹事3名でみるという方法もある。
- ・ 出版委員会に出版企画書を提出するのは、委員会として予算を確保するメリットがある。ただし、その分価格に上乗せされる。
また、出版企画書を提出してから最短でも3ヶ月近くかかる。ただし、企画書をあらかじめ提出していれば、印刷原稿を持ち込み後3週間程度で出版可能である。
- ・ 9/7 期限の出版委員会に、H19 年度出版予定のものを提出する。9A/9B と「新材料を用いた複合技術小委員会」報告書を申請する。現状調査報告書は保留とする。H20 年度には示方書（指針）、維持管理マニュアル、H21 年度には FRP 歩道橋の性能照査型設計マニュアルを出版する計画である。
- ・ 「革新的構造材料の土木分野への活用」に関する講習会のテキストは水準3として出版する。水準3の表紙は今後決める。査読（体裁としてのチェック）は、大垣幹事長、古市幹事が行う。出版企画書に小委員会を記入する必要があるが、幹事会として、担当者は武知幹事とする。年内に出版予定とする。
- ・ 古市幹事より、出版物の書式案について説明があった。
- ・ 他の出版物の書式（幹 10-4-4～7）は概ね同じであるが、文字のサイズ、余白などが異なっている。コンクリートライブラリーに合うのがよいのでは。
- ・ 複合構造委員会としては、鋼とコンクリートの人が執筆するケースが多い。鋼はとくに決めているいないため、コンクリートに合うのがよいのでは。
- ・ コンクリートライブラリーの書式をもとに、古市幹事が、複合構造委員会の出版物の書式案を作成する。

(5) 全国大会研究討論会（資料 幹 10-5）

- ・ 幹事はできる限り出席する。
- ・ 担当の幹事（武知幹事、西崎幹事、山口幹事、池田幹事）は少し早めに集合する。
- ・ 講演者は 13:30（1 時間程度前）に集合して事前に打合せを行う。会議室は川島事務局が確保する。

(6) 複合構造シンポジウム（資料 幹 10-6-1,10-6-2）

- ・ 学会誌 1 月号に会告を出す予定である。
- ・ 開催日は、第 1 候補 11/8,9, 第 2 候補 11/1,2 とする。理事会の日が決まり次第、開催日を確認する。

(7) 日韓ジョイントセミナー（資料幹 10-7）

- ・ 9/1 までに出欠を確定する。未確定の幹事は 9/1 までに横田幹事まで連絡する。川島事務局も参加できるように、大垣幹事長から学会に要請する。
- ・ 発表は各自 20 分程度とする。
- ・ 最近の複合構造物建設プロジェクトの資料は、道路、鉄道 5 ページ程度ずつを目安とする。

発表者は本間幹事から上平氏にお願いしてみる。

- ・ 資料の原稿は 9/19 までに横田幹事に提出する。資料は 100 部印刷する。
- ・ 講演者の旅費は国際助成金から、講演者以外の旅費は重点研究課題からの支出とする。学会は海外の旅費は実費精算のため、領収書を提出する。おみやげ等の予算は、国際助成金の方から出す。
- ・ 飛行機のチケットは各自予約・購入する。宿泊、バスは韓国側で手配して頂ける。
- ・ 日本から英文指針 10 部とおみやげを贈呈する。英文指針は分担して持参する。
- ・ 次回幹事会は、韓国で実施する（8 名参加予定）。

(8) 複合構造物の性能照査例講習会（札幌会場）報告（資料 幹 10-8-1～5）

- ・ 渡辺幹事より、札幌会場での講習会が 7/7 に行われ、3 会場での本講習会が終了したことが報告された。
- ・ 資料幹 10-8-4 の照査例の正誤表（網掛け部が追加分）をチェックし、9/1 までに訂正があれば渡辺幹事に連絡する。
- ・ 資料幹 10-8-5 の講習会アンケートの質問に対する回答案は渡辺幹事まで連絡する。今後、講師に回答案の作成をお願いする。次回幹事会までに案を作成する予定である。

(9) 「革新的構造材料の土木分野への活用」に関する講習会の報告（資料 幹 10-9）

- ・ 川島事務局より 8/29 に「革新的構造材料の土木分野への活用」に関する講習会が開催され、53 名参加があったことと、多少の余剰金が出たことが報告された。

(10) 複合構造委員会委員長候補者選考細則（資料 幹 10-10-1）

- ・ 大垣幹事長から委員長候補者選考細則について説明がなされた。
- ・ 12 月 22 日に第 4 回委員会（今年度最終委員会）が開催されるため、委員会で次期委員長を決定する。そのため、下記のスケジュールで次期委員長候補者の選出を行うこととなった。
 - －10 月頃に委員長候補者の推薦のお願いをして、12 月上旬まで募集する。
 - －委員会前に 1 回目の投票をする。投票は郵送とする。
 - －委員会で開票する。1 回目の投票で委員長が決定しなかったら、委員会で決選投票する。2 回目以後の投票は委員会の欠席者はできないため、事前に承諾を得る。
- ・ 選挙管理小委員会が行う業務内容や時期を細則に記述する必要がある。
- ・ 投票は、推薦者の中から行う。推薦者がいない場合は委員長が推薦する。
- ・ 委員長候補者選考細則については、メールで審議することとなった。

(11) 複合構造委員会による土木学会各賞等の候補推薦細則（資料 幹 10-10-2）

- ・ 大垣幹事長より、土木学会各賞等の候補推薦細則について説明がなされた。
- ・ 委員長推薦者の推薦のお願いと合わせて、各賞の募集も行う。

(12) 平成 17 年度実績の委員会活動度個別調査書（資料 幹 10-11）

- ・ 大垣幹事長より、委員会活動度個別調査書の修正版の説明がなされ、了承された。

(13) 第 4 回複合構造委員会における特別講演について（資料 幹 10-12）

- ・ 古市幹事より第 4 回複合構造委員会における特別講演の企画案が説明された。
- ・ 特別講演は、鋼構造委員会鋼・合成構造標準示方書小委員会の委員長で、当委員会委員でもある長井教授に「鋼・合成標準示方書の紹介」をお願いする。長井教授のご都合がつかない場合には、「インフラストックの近未来的課題」をテーマとして講演者を選出する。

- (14) 上田委員長より，鋼・合成構造標準示方書については，タイトルから“合成”をとり，「鋼構造標準示方書」に変更して欲しいとの意見書を，鋼構造委員会に出す．

以上（記録・文責 池田 学）